

モニタリング調査結果

種名： ヤマエンゴサク

調査者： 特定非営利活動法人境川の斜面緑地を守る会

調査地： 上鶴間

調査期間	気づいたこと
2018年3月 ~2018年4月	針葉樹の交ざる林内では個体数は減ったが、まだ残存している。河川管理用通路沿いでは9m×3mの範囲で安定的に生育を維持している。低木を除伐しササ刈りを行った旧河道沿いでは個体数、開花数が増えている。ジロボウエンゴサクに比べヤマエンゴサクは群生はかなりかたまっている印象がある。
2019年3月 ~2019年4月	針葉樹の交ざる林内ではササ刈りをしたものの、個体数はさらに減った。河川管理用通路沿いでも珍しく開花数が少なく、一つの花茎に咲く花の数も少なかった。しかし旧河道沿いの生育地は勢力を増している、シラカシを伐採した林内でも個体数・開花数が増えているので、調査区だけでなく林全体での各生育地の動向に注意して観察を続けたい。
2020年3月 ~2020年4月	針葉樹の交ざる林内では個体数が減ったものの40茎ほどを維持している。河川管理用通路沿いでは開花茎数がさらに減って100茎ほどとなった。しかし旧河道沿いの群生は勢力を増して50茎以上となり、勢力を落としていく群生と勢力を増していく群生がある。ササ刈りなどで一気に勢力を増しても10年以上経過すると勢力に衰えが見られ、群生にも寿命があるのだろうか。